



## 宝くじ助成でコミュニティ備品を新調

湊北自治会（会長蛭崎昭さん）では、地元住民の一体感の醸成、あるいは親睦を図るために神幸祭などの伝統文化を通じたコミュニティ活動に努めており、またその保存・継承も行っています。

今回、この様な活動に対する努力が認められ、近世期から伝わり昭和初期に復元されるとされる神幸祭踊り車の本天幕を、一般財団法人自治総合センターが実施する「宝くじ助成事業」による助成金を受けて購入しました。

今後は地域の祭事やイベント等で積極的に活用するとともに、更なる地域コミュニティの活性化が期待されます。

ところで、「一般コミュニティ助成事業」は、宝くじ事業収入を財源として一般財団法人自治総合センターから地域のコミュニティ組織の活動に必要な備品等に対して資金が助成される事業です。湊北自治会が祭り用の備品を購入したことで、宝くじ事業が地元全域に周知されるなど、宝くじ事業の広報についても大きな効果が見込まれます。

問い合わせ 企画振興課 企画振興係（内線361）



## 食物アレルギー研修会開催

2月17日、保健センターチャフルつきで独立行政法人国立病院機構、小倉医療センター 小児科 綿貫圭介先生を講師に招き、「学校給食における食物アレルギーの対応」と「緊急時のシミュレーションを取り入れたエピペンの実習」と題し、町内全小中学校教職員対象の研修を行いました。平成24年度に起きた学校給食による死亡事故の事案を基に、学校現場における対応について共通理解を図りました。

また、アナフィラキシーショック症状で児童生徒が倒れている状態を想定し、身体を固定する位置やエピペン（医療器具）を注射する位置を確認しました。

そして、エピペントレーナー（実習器具）を各自が自分に打ち、受講者同士がお互いに打ち合い、感覚を体験する事ができました。

研修終了後、受講者からは町内の教職員が食物アレルギーに対しての共通理解を持つ事ができたこと、実習を通してエピペンに触れることができたことは、とても素晴らしいとの感想が寄せられました。

今後、食物アレルギー症状を有する児童生徒は増加する事が明らかであるため、定期的に研修会を行うことが必要であり、次回は8月6日に研修を行うことに決まりました。

問い合わせ 学校教育課 学校教育係（支所・内線253）



## 大規模災害等の相互応援協定の締結

### 大規模災害に備え・・・在日米軍再編訓練移転先6基地関係21自治体

在日米軍再編に係る訓練移転先6基地【千歳・三沢・百里・小松・築城・新田原】が全国各地に所在するという利点を生かし、東日本大震災のような大規模災害が発生した場合に、遠方の自治体から被災地へ備蓄物資等の輸送や職員の派遣を行い相互に助け合うことを目的に、3月31日に関係市町（21自治体）で協定を締結しました。

応援内容 ・食料、飲料水及び生活必需品など ・応急復旧などに必要な資機材  
・応急復旧に必要な職員の派遣

問い合わせ 総務課 行政係（内線331）

